

たい頭して来た

獨乙の新興勢力

飯野村出身の白土氏語る

昨日歸郷して……

石城郡飯野村出身の白土萬次郎氏は三年程前からドイツに留學し應用化學研究中の處既に學成り去る一日春洋九にて横濱に到着昨日錦衣を飾つて歸郷した因に同氏は福島師範學校から東京高等工業學校教員養成所を卒業し水戸其他の工業學校で教鞭を執り著書頗る多く今回も直ちに博士論文の脱稿を急ぐ由同氏は語る『獨乙の製造工業方面に於ける戦後の復興振りは凄まじいものがあります其方面に投じ大工場等の完成を急いで居りますが工場と云ふ工場は總べて採光通風共によく殊に夜間の電光照明等は晝をさびくばかりで設備の點等は我々日本人の眼から見ると贅澤ではないかと思はれる程整つて居ります、是れは工場能率の増進に努める結果

握手が、必らずしも架空談でない云ふ事は佛國はアルサス、ローレンを占領して鐵の産出が甚だ多いのです石炭がない、一方獨乙はルール地方から石炭は多量に産出するが鐵が不足である、此結果を致しまして兩國が有無相通じ英國の製造業に大なる壓迫を加へ且つ歐州市場が獨乙に居る

米國の勢力を削ぐうとするのは當然な事でありませう、従つて今後の經濟界は蓋し目覚ましいものがあらうと期待されて居るのです』

小作人の悪手段

農村悪化の傾向

某地主に納入された小作米中外米が混入してあつたので問題となつたが小作人から地主にいられてお

石城郡地方の農村にはいまだ小作爭議が起らず地主對小作人の關係は圓滿であるが偶々昨年の暮に磐崎村の

某地主に納入された小作米中外米が混入してあつたので問題となつたが小作人から地主にいられてお



家庭庭欄

米の見分方

上等のお米を炊けばおいし、い御飯が炊け、下等な米であると従つて御飯もまづく

異議なきも唯此際軌道經營者の設計に依るが

小作證書には小作米の種類を明記してゐないのが普通だから犯罪とはなるまいが實際は小作田から收穫したものを納入するのが慣例となつてゐるから

軌道の延長で

長橋町區民大會

延長に反対はしないが一つの希望がある

湯本平間の軌道が從來尼子橋南端止りであつたのを新川町迄延長する計劃があるが既記の如くであるが是れが延長如何に依り甚大な影響ある

西部方面殊に就中長橋町である爲め同町有志は過般來種々対策を考究中の處交通機關の發達は平町の爲めに喜ぶべき現象であつて一町の利害休戚に依り徒らに是れを阻止するが如きは平全町の爲めに香しからざる行動なれば延長に關しては勿論何等の

見地から 國道を通過する事に變更して貰へた

いとの見見多く、夫れには現在約三間中の國道を六間中に擴張せんが爲め會社に對し相當價格を以つて土地買收の方法を講じられたき旨の希望條件を附して迫る

炊けるものであります、それで米の良悪を見分ける方法を心得て置かねばなりません。それは左のやうにして見分けるのであります、

一、粒の固くて肥えたもの

二、色相に濃淡がなく、透明で光澤の多いもの、三、表皮が薄く、たての溝の浅いもの、四、粒に大小の異

同がなく、且つ腹白のないもの、五、乾燥が充分で割れないもの、六、蛋白質が多く、粘り氣が強く、固まらないもの、七、釜殖えが多く、香味供によいもの等であります。前に書きましたやうな米ならば、先づ上等の品と云つてよろしいでせう

新案速成の裁縫を講習

平陽實科にて

平町平陽實科女學校にては七八の兩日午前九時より午後三時迄新案速成裁縫作法講習會を催す由であるが講師は元茨城縣女子實業學校長兼女子高等技藝學校校長の太田梅子女士で會費は二日間八十錢、講習科目は最も新しい方法で例へば袖の丸形や襟等も今迄の様にハサミ、ヘラ、マチバリ等を使用しない

事となり本日午後一時より性源寺に於て區民大會を開いた

一種罪惡となるわけで地主連もいろ／＼考慮してゐる向きもあるが各地方に頻發する小作爭議に刺戟されて農村悪化の傾向も見えるので郡内の地主連はこれが對策に關しそれ／＼講究中である

引續き漁獲され十數年來の好漁で當業者も不審がつてゐる位である之等主なる仕向き先は東京、茨城方面で尚ほ漁群は漸次南進しつつあり本月中旬頃迄に銚子濱沿岸が好漁場となるものと豫想されてゐるから平町地方市場に秋刀魚が見られるのも此處旬日であらうと因に水揚相場は一尾一錢である

火消藥の實驗 平使政會にては七日午後二時より元公會堂の端にて模型家を建て模擬火災を行つて「小山式火消藥」の實驗を爲す由であるが同會は資金を造る爲め是れが縣一手販賣を行ふと

東京から

キウヨウアリ 懐しい郷里の土よ

川崎 文治

開ければ三日の朝平町の高野分店主高野卯之吉君から『ヨクキコエマシタ』との電報が来た處に依つて見ると僕の聲は郷里に迄とどいたらしい。早速荷からげして自動車

上野驛に飛ばし荷物は一時車坂の山崎東京支店に預けて日光から上京する藤田裁縫女學校の修學旅行團を待ち受けた、同校から東京市中の案内役を仰せ

付かつた爲めである、午前一時廿分に一行は無事到着直ちに宿舎の

山下館に入り引卒の吉田、高橋兩女士の甲斐々々しき世話の下に一行は先づ旅装を解く、直ちに省線で明治神宮に參拜、夫れから日比谷公園から宮城を拜み國技館の菊人形に興を沸かして淺草公園を一巡し夕方旅舎に引揚ぐ、一行の女生徒は何れも

温順で 東京のモーダンガールにほと／＼虫づの走つて居た僕としてはかかる堅實な女性が將來郷里の母性である事を思ひは確かに氣強さを感せず居られなかつた、宿屋には高橋教諭の母堂(高橋龜松氏夫人)が訪ねて来たが此人はいま奥田女史經營の技藝學校で單身裁縫を専念に修めて居るのである、七十の

手習へ と云ふ事はあるが婦人として實に見上げた決心である感慨無量であつた。僕の居町長橋町の植頭區長から『キウヨウアリ、スグカへ』との入電に接したの翌日一行に

別れ午前八時發に乗つて久し振りで郷里の土を踏んだのであるが

矢張り 平はなつかしい、住まなくつたつて僕には都だ

秋刀魚豊漁 毎日續いて

石城各濱の秋刀魚漁は目下最盛期で毎日三十萬尾からの漁獲あり當業者は何れもホク／＼の態にあるが本縣の秋刀魚は本月中旬頃までであらうと豫想されてゐる從來秋刀魚漁は四五日間とれると四五日間全く漁獲されぬと云ふ過期的なものであつたものが本年は毎日